



潘宝秀からの感謝のことば

董事長と董事長夫人へ

董事長、董事長夫人。お二人の、わたしに対する「関心、關懷、關照（気配りと思いやりで接する）」により感謝しています。

わたしは長期にわたって右顔面麻痺がひどく、頭痛で夜も眠れないほどでした。馬偕病院で検査して薬を飲んで夫人ですが、なかなかよくなりません。悩んでいました。そして台湾大学病院の医師たちと親しい董事長夫人に相談したのです。董事長は熱心にお話の話を聞くと、その日のうちに台湾大学病院へ行って診察の申し込みをしてくれました。また、次に日には高品質のビタミンC、B1、B12など栄養剤を持ってきてくれました。それから、紹介した医師に診てもらってよくならなかったときのことを考えて、ほかの医師の情報も紹介してくれました。このとき、わたしは本当に感動しました。一従業員にすぎないわたしのために、ここまでしてくれることが信じられませんでした。

そして治療の期間中、董事長は毎朝病状を聞いてくれました。董事長夫人も電話で病状を気遣ってくれました。今、病状はかなりよくなりました。頭痛もなくなりました。それでも、董事長夫人は一ヶ月分のビタミンB1をくれました。このときも、わたしはとても感動しました。董事長、董事長夫人、お二人はわたしを病気の苦痛から救ってくれた恩人です。何とお礼をいってもいいかわかりません。わたしはもとと董事長夫人に相談してみようと思っただけです。しかし、董事長夫人は親身になって考えてくれました。わたしは董事長が台北や上海の従業員に対して、家族のように接していることは知っていました。董事長はいつも従業員の健康を思いやり、何かあった場合もできる限りの援助をしていました。以前、ある上海の従業員の家族が交通事故に遭い、すぐに手術しなければ足を切断しなければならなくなったとき、董事長は彼女の家にお金が出てくれました。すぐに人を使って手術費用を病院まで届けさせたこともあります。こんなに従業員思いの董事長がいるのでしょうか。しかも、董事長は黙って援助しても決して見返りを求めないのです。

董事長は去年から「関心、關懷、關照（気配りと思いやりで接する）」の運動を積極的に広めようとしています。新しい従業員が入社すると、毎日電話で適応状況を確認します。そして4月に上海の従業員、袁英さんが心臓病で手術を受けたときも董事長はずっとそのことを気に掛けていました。従業員ひとりひとりに対して常に自ら「関心、關懷、關照（気配りと思いやりで接する）」を実践してきました。こうした董事長の気持ちに対して、わたしたちは「感謝に報いて、社会に貢献する」という態度で応えなければならぬと思います。

台北合璧製造課同仁 潘宝秀



黄山に登って思う

去年、林經理が中心となって黄山に登りました。これには董事長をはじめ数人の同僚も参加しました。この登山を通してわたしは感じたことは「合璧の精神と活力でみんなが団結し、励まし合い、困難を恐れず、自然を満喫することができた」ということです。わたしはこれまでに何度も旅行の経験がありますが、また、山地の風景区を訪れたことも少なくありません。しかし、今回の旅は特別なものでした。



黄山の美しい風景

黄鎮：中国の古典美あふれる、その町では完成された民間工芸の素晴らしいさに接しました。黄山：「黄山を見たら、他に見る山はなし」ということばを実感しました。

わたしは登山の前、先輩たちから黄山の雄大さや険しさについていろいろ聞かれました。中でも険しさについては、わたしの中でちょっとしたプレッシャーになっていました。登りきれず谷に落ちたらどうしようという恐怖心もありました。しかし、実際には最も険しいとされる蓮花峰は生態保護のため登れず、一線天や大峡谷といった風景区も少し緊張はしましたが、それでも頑張って登りきりました（登ったあと、まだ体力が残っていました）。登山の途中、苦しむなるといつも顔を上げて黄山の雄大な風景を眺めました。それは大自然の芸術です。そして実感したのです。「犠牲がなければ収穫もない。生活も同じことです。犠牲が多ければ華やかな生活が得られる。」のだと。



今回の登山でわたしはふたつを感じました。それは団結の大切さと自然の素晴らしさです。

まず団結の大切さについてお話しすると、黄山は本当にきれいです。いたるところに険しく危険な箇所があります。わたしは決して事故による脱落者を出してはいけません。それには組織をしっかりと作り、安全面に十分に注意する必要があります。つまり、みんな団結して行動しなければならないのです。自分勝手は許されません。そこで、わたしたちは林經理、張家飛さん、わたしの三人が責任者となってみんなを指示しました。登山の途中、チームリーダーとベテラン登山者が前でみんなを引っ張り、体力のない者はそのあとに続き、さらにその後ろでわたしたち三人がサポートしました。こうやって全員が無事登山に成功したのです。



その途中、わたしは同僚たちの団結する精神と求心力を見ました。わたしが生産技術課に入ったばかりのころ、林經理は「主動的参加型の管理」という概念を教えてくださいました。今回同僚が見せてくれたのはまさにそれでした。お互い進んで呼びかけ合い、励まし合い、気配りと思いやりをもって接することが実践されていたのです。

もうひとつが自然の素晴らしさを実感することです。30日早朝、わたしは三人の責任者は董事長といっしょに早朝トレーニングに出かけました。そのとき董事長は「どうせ登るなら、ただ登るだけじゃなくて、黄山の美しさを満喫しましょう。自然と溶け合って、その素晴らしさを感じるこそわたしたちの心が求めているものだから」といっていました。確かにそうです。ただ登るだけなら、次から次へと慌しく景観スポットを渡り歩いただけなら、疲れるだけです。せっかく登るなら自然と溶け合って、その素晴らしさを感じてみようと思いたいです。仕事も同じことです。ただやるだけなら、何も残りません。その中に喜びを見つ、仕事を味わうことが大事なのです。本当に仕事というものを理解している人は常に改善を試み、自らも成長していきます。そして、その中で喜びを感じます。

今回の黄山の旅ではいろいろな人生哲学を勉強することができたと思っています。上海合璧生技課主任 馬広誠

「宣教の時代が終わった」なんてだれがいったのでしょうか？

わたしは子供の頃、お寺にお参りしたことがありません。わたしにとってお寺とはたまに遊びに行くところでした。60年代末期の台湾、社会全体は50年代から発展してよくなっていったものの、だれも幼稚園に通えるという時代ではありませんでした。わたしの家も経済的には明日の飯に困るほどではないにしろ、それほど裕福ではありませんでした。それでも両親は何とかわたしにより教育の機会を与えようと町へ仕事に出していました。ちょうどこのころです。カトリックやプロテスタントのキリスト教がさまざまな方法で宣教を行っていました。学校や幼稚園を作るのもその中のひとつでした。そんなわけで5歳のわたしは何も考えずに聖書にふれることになったのです。さらに大人になってからは、聖書の中には伝えたい思想がたくさんあることがわかったのです。

16世紀は宣教師が海を越えて宣教をはじめた時代です。カカトの外国語を使った異国での宣教活動。彼らそうさせたものは一体何でしょうか。そしてどうやって宣教に成功していったのでしょうか。聖書に書かれているのはイエスキリストの教え、つまりイエスとその弟子の事から、そして彼らの精神です。それは二千年にわたって世界中で何億という人たちに読まれ、崇められ、信仰されています。そしてそこにあるものはすべて「愛」ということばで表されます。現代社会の街角で宣教師がいうところの「神は人を愛している」ということです。

聖書の教えは企業の経営理念に通じるところがあります。そして合璧公司の経営理念「感謝に報いて社会に還元する」からは経営者の考えの中にあふれんばかりの愛を感じることができそうです。従業員への愛。社会への愛。それらはわたしたちに感動を与えます。社内ではときどき小さな感動の物語を聞くことができます。これらもすべて愛からはじまって、愛を伝えるものです。わたしは二十年来にわたって董事長を見てきましたが、董事長はまさに宣教の精神を持った人だと思えます。経営理念にしたがって少しずつ宣教し、従業員のひとりひとりに輝く愛を与えます。そして、心の中に愛のなかった人にも徐々に愛や感動を与えます。

「宣教の時代が終わった」なんてだれがいったのでしょうか。少なくとも、わたしの知る限りでは合璧は今でも愛と感動を持ち続けています。イエスキリストの教えは二千年続いています。合璧も経営者の素晴らしい意志とことばで人々を感動させ、永遠に続くことを祈りたいと思います。上海合璧研究開発部經理 梁文昇

台璧は我等温もりの家；我は台璧を愛し、台璧は我を愛する；關心關懷關照 同心同步同調！

金山日帰り旅行の感想

このたび会社の行事で、泳ぎを習うため金山の海に日帰り旅行へ行きました。わたしは最初この話を聞いたとき、喜びと緊張感と同時に感じました。喜んだのはみんなであっという間に海へ行くなんてめったにないいい機会だと思ったからです。そして緊張感のほうはこの行事の中に董事長も参加することになっていたからです。

土曜日、朝四時半に会社を出発。車の中で董事長は海で気分が悪くならないように、適当に食べたり飲んだりしておくようみんなにいました。一時間あまりで金山に着きました。六時の海は人影もなく、静かで広大。そんな風景を見ていると心からくつろぎを感じました。

董事長はみんなに足ヒレのつけ方を教えると、海に入ったあとの動作を自ら範疇するかたちで教えてくれました。そしてみんなができるのを確認してから、海に入るよういいました。このときの董事長の教え方は日頃の仕事で新人を教育するのと同じでした。みんなは黙って董事長の教えを聞きました。しかし、わかってはいるつもりでも、忘れてしまうこともしばしば。そんなとき、董事長は厳しく注意します。こうしたところでも学ぶべきところは少なくありません。

海に入ったあと、董事長はみんなに泳ぎ方を教えてくれました。このとき、ひとりの同僚が緊張のあまり動作がばらばらでうまく泳げませんでした。董事長は彼女がちゃんと泳げるようになるまで辛抱強く何度も教えました。そして彼女は最後には泳げるようになりました。それを見てわたしは思いました。仕事の中で自分の意思が同僚に伝わらないとき、自然と嫌な表情になって冷たく当たってしまうことがあります。そんなときでも辛抱強くやらなければいけないのだと。

今回、わたしにとってはじめての水泳でした。董事長に教えてもらったことで徐々に恐怖心もなくなり、少しずつ要領がつかめてきました。そして何人かの泳げる同僚も教えてくれるようになり、やがてみんなではしゃぎながら遊びはじめました。その様子がとても楽しそうに見えたのでしよう。泳ぎを習わず岸に立っていた同僚のひとりが衝動に駆られて海に飛び込んで来たのです。波の音と笑い声が交じり合う金山の海で、わたしたちはみんな遊びました。そして時間はあっという間に過ぎました。

このあとパーベキューの店で食事をしました。海風に吹かれながらのパーベキュー。話はずみ、みんな早起きの疲労も忘れていました。董事長の提案で、わたしたちは社歌を歌いました。そして海を観光する観光車に乗りました。わたしの会社はこれまでに何度も金山に来てこの店で食事をしていたのですが、親しみやすい董事長と店の主人が仲良くなっていったため、店の主人が特別に乗せてくれたのです。岸の一方は人工海、もう一方は自然の海。わたしたちは親

光車に乗ってきれいな風景を観光しました。波が岩を打ちつける音が聞こえます。そしてみんなの歌声や笑い声。わたしたちはここで素晴らしい思い出を作りました。

董事長がくれた楽しい一日のお礼として、夕食はみんなでごちそう料理を持ち寄って食べました。献辞の中では董事長と従業員という垣根は感じられず、人生経験が豊富でおもしろい年長者の話をみんなが享受しているようでした。董事長の話の中でわたしは最も感動したのは、董事長は築三十年の家にリフォームもせずに住み続けているということでした。わたしは董事長というのは豪邸に住んで特別な生活をしているとばかり思っていましたから本当に驚きました。董事長は簡単な生活を送り、毎月援助の必要な人のお金を使っているそうです。董事長はいつも従業員といっしょに食事する機会を探しています。自分だけ特別な待遇を享受するつもりはありません。このような董事長を見ていると「合璧は家族」という理念を改めて実感しました。

上海合璧電子電器有限公司 上海合璧生管課副課長 林蘭